17 ハナアブ類（ハナアブ科）発生源としての休耕田の役割：池崎善博（九大院比較社会文化研究学府） Long tailed larvae grown in paddy field (Diptera, Syrphidae) : Yoshihiro Ikezaki

ハナアブ類（ハナアブ科:Tribe Eristalini）の幼虫はオナガウジとも呼ばれ、希にハエ蛆症の原因となることも知られている。日本産のこの族約 40 種のうち幼虫の形態が知られているものは 2 割程度で、幼虫の発生場所としてナミハナアブ *Eristalis tenax*、シマハナアブ *Eristalis cerealis*、ホシメハナアブ *Eristalinus tarsalis*、オオハナアブ *Phytomyia zonata* などは有機物が多い豚舎の排水溝、街中の溝、古くは肥溜めなどが知られ、またアシブトハナアブ *Helophilus virgatus* は有機物が少ない溝などから発生することが報告されている（池崎 1977）。樹洞から発生する種も知られている。最近、社会事情の変化で豚舎や肥溜めなどが減少している中でハナアブ類の発生場所がどうなっているのか長い間不明であったが、オオハナアブやキゴシハナアブ *Eristalis quinquestriatus* が休耕田から発生していることをつきとめることができた。このことから、多くのハナアブ類（Tribe Eristalini）が発生源として休耕田を、さらに類似した環境として溜め池の岸边、湿地を利用していることが推定される。山地で見られるハナアブ類（Tribe Eristalini）は前記のような平地の湿地で羽化した成虫が移動してきたものと思われる。